



Title	2020年度 意匠学会論文賞選考結果報告
Author(s)	今井, 美樹
Citation	デザイン理論. 2021, 78, p. 3-4
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/83327
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

2020 年度 意匠学会論文賞選考結果報告

学会賞選考委員会
副委員長 今井美樹

受賞論文

門田園子

「アフリカに渡った横浜輸出スカーフ
— UAC (United Africa Company) との関連を中心に」

授賞理由

門田氏の受賞論文「アフリカに渡った横浜輸出スカーフ — UAC (United Africa Company) との関連を中心に」は、1950～1970 年代の輸出スカーフが、英国貿易商社 UAC を介してアフリカ市場に渡った製品についての論考である。

論文は、横浜市経済局工業技術支援センター保管の資料をもとに、西アフリカ諸国の植民地時代から独立前後にかけてを調査し、図案の多くが伝統的に模倣され続けてきた「クラシック」デザインのメタ・イミテーションであったこと、またアフリカの独立前後においては自国のアイデンティティを象徴するモチーフが旧宗主国すなわちイギリスによって形成されていたことを明らかにした。一次資料にあたって丁寧に事実関係を拾った正攻法による実証的な論文であり、多方面の情報収集と合わせて、充実した歴史研究にもなっている。

製品に与えられる民族・国家を象徴するモチーフおよびその図案は、植民地時代にはイギリスの間接統治、独立後には英連邦の体制下であることを意識させるための可視化であったことを示しており、スカーフという日常使用の製品から無意識に与えられるイメージ操作が、政治的・啓蒙的・文化的にも作用するであろうことを想像すれば、政治学や社会学また思想史など他の領域の研究にも繋がる可能性がある研究であることも評価された。

選考経緯

本論文賞は『デザイン理論』76 号、77 号に掲載の学術論文 13 編を対象とした。選考委員に当該論文執筆者が 2 名いたため、作品賞選考委員の川島洋一委員、佐藤博一委員に代行依頼し、天貝義教委員、畑中英二委員、今井美樹委員の 5 人が選考した。

事前に各委員が 1～3 位の論文選出とその理由を記述し、その結果をもとに後日、大森

正夫委員長を交え6名でディスカッションを行い、各論文を精査することで上記の結論を得た。

受賞論文以外の最終候補には、橋本啓子氏「Analysis of the Relationship between Katsuhiko Yamaguchi's Art and Commercial Interior Design of the 1960s」、高安啓介氏「良いデザインと評価の問題」、矢島由佳氏「近現代日本における水引に関する記憶の系譜」の3本の論文が挙がっていた。橋本氏は海外でも注目される山口勝弘論を英語で発表することの意義が評価された。高安氏はデザインにおける過去の歴史や実践的評価を紐解きながら、難解でない解説で論じていることが評価された。矢島氏は伝統的な水引が、現代においても日本の贈答文化や工芸の象徴として継続している事例を示し、荒削りながらも考現学的考察が評価を得た。